

▶ Activity Report

(公財) 岩手県スポーツ協会選手強化事業

ジュニア体験・育成事業

実施報告

<ビーチバレーボール体験会>

主催 岩手県バレーボール協会



ビーチバレーボールは1997年なみはや国体から公開競技、2012年ぎふ清流国体ではデモンストレーション競技、2017年愛顔つなぐえひめ国体からは正式競技として国民体育大会で実施されてきました。

2019年いきいき茨城ゆめ国体からは、成年種別から全県出場での少年種別に変更、さらには2024年国民スポーツ大会SAGA2024からはブロック予選で出場権を争う形となりました。

そのような状況で東北ブロック予選を勝ち抜くには、早い年代からビーチに親しみ、砂上での経験値を高めて競技力を向上させることが急務であると考えました。

今年度の東北ブロック予選では、少年女子は2年連続同ペアで参加し、ブロック2位で予選を通過したものの、少年



男子は2人とも初出場のペアで、ビーチの特性に慣れてきた終盤は非常に良い



試合を展開し、最終戦で1勝したものの、序盤の試合で実力を発揮できず、6位で予選通

過ができませんでした。

今回の事業では、中学生年代の選手にビーチへの興味関心を持ってもらう機会を作り、砂上での基本技術の習得やビーチ独特の戦術についての理解を深めてもらうことを目的として実施しました。

参加者は中学生男子を中心に、女子や小学生の参加もありました。また、インドアでの県内上位校の生徒も参加しており、参加者全体のモチベーションも非常に高いものがありました。

具体的な練習内容としては、ビーチでの動作、ビーチで特徴的なプレーで使われる基本スキル、タスクゲーム等を実施しました。

足元の不安定さ、風への対応など苦労している部分もありましたが、初めて会った参加者同士が助け合う場面が多くみられ、スキルアップや、同世代の選手同士でのコミュニケーションといった面で非常に有益な事業となりました。

この体験・育成事業に参加した生徒が、ビーチの大会に選手として出場するなど一定の成果があり、今後も全国大会への継続的な出場や高校(少年種別)・一般での競技継続につなげていきたいと考えています。

<IWATE ドリーム陸上教室 2024>

主催 (一財)岩手陸上競技協会

今回で3度目となる「IWATE ドリーム陸上教室2024」が11月10日富士大学スポーツセンターで開かれ、約70名の小学4～6年生が集まりました。今回の講師は、2022年世界陸上110mハードル日本代表の石川周平選手と、2024パリ五輪100mハードル日本代表の田中佑美選手です。子どもたちは最初緊張していましたが、ウォーミングアップや「ピラミッドジャンケン」を通して打ち解け、笑顔を見せるように。その



ハードル走に挑戦

後、石川選手の指導のもと基本となる姿勢づくりに挑戦し、「頭を上から糸で引っ張られているようなイメージが大切」とアドバイスを受けました。

短距離走のクリニックでは、石川選手より基本姿勢からの前傾と自然な足の動きを学びました。田中選手も手本を示しながら質問に答え、最後は50m走の計測で全力疾走する子どもたちに温かい拍手が送られました。

ハードルのクリニックでは、田中選手のデモンストレーションに子どもたちは釘付けになり、「ハードルをスレスレで飛んでいた」「足が速くて驚いた」との声が上がりました。その興奮が冷めやらぬまま、子どもたちはハードル走に挑戦。田中選手のアドバイスを受けながらスピードを上げる方法を学びました。

休憩中も、子どもたちは両選手の周りに集まり積極的に質問。「抜き足が早く下ろせない」という悩みに対して2人は、「腕と合わせて、体の近くでコンパクトに回す意識を持つことが大切」と、実際の動きを見せながら

レクチャーしていました。

クリニック終了後の質問タイムでは、「大会前の緊張の乗り越え方」や「大会当日の朝食」についての質問が出され、選手たちは自身の経験を交えて回答しました。最後に両選手は「いろんな種目に挑戦して、自分が楽しいと思う競技を見つけてほしい」、「失敗を恐れず挑戦し続けることが大切です」と子どもたちを激励しました。



講師の田中選手（左）と石川選手（右）

<ジュニア育成への取り組み>

主催 岩手県カーリング協会



ジュニアカーリング体験教室

岩手県カーリング協会では今年度より、新たにジュニア育成事業を行いました。今回はその中から、3つの取り組みを紹介します。

1つ目は、競技力向上を目的とした「戦術講習会」です。講師に3度のオリンピック出場経験があり、現在は日本代表コーチの小笠原歩氏を招き開催しました。カーリングはチームによって、また試合中のタイミングによっても戦術が違います。どのように試合を組み立てていくか、作戦面がとても重要です。対象はジュニアからシニアまで幅広く参加。トップレベルの選手・指導者に教わることはジュニア育成にとっても重要なことで、大きな学びや刺激となり、トップを目指すきっかけにもなると考えます。

2つ目は「ジュニア大会への派遣」です。夏合宿として軽井沢へ選手11名を派遣し、現地のジュニアと合同合宿をし、その後大会にも参加しました。また、全国各地のジュニアが出場する大会にも選手を3月に派遣します。県外のカーリングシートに乗ること、試合経験をつむこと、いろんなチームと試合をすることなどジュニアのうちに多くの経験をすることで、競技への視野や幅が広がり、競技力の向上だけでなくアスリートとして

の自覚が芽生えることを期待しています。

3つ目は「ジュニアカーリング体験教室」です。初心者の子供を対象に月に1回実施し、冬休みには親子体験会も行いました。体験教室では、カーリングの基本動作を一通り練習し、最後にミニゲームを行います。ミニゲームが始まると子供たち同士の距離が一気に縮み、作戦を自分たちで考えるようになります。自然とコミュニケーションも取れるようになり、毎回とても盛り上がる時間となっています。この体験教室に参加して、またやりたい、もう少し上手になりたいという子供たちは継続して参加をしています。

盛岡市や二戸市の小学校では、学校体育としてカーリング体験に取り組む学校が年々増えていますし、日本選手権が首都圏開催されるなど、カーリングに対する注目度が高まっています。今後、カーリングが地域に根付いたスポーツとして定着するよう、体験教室を身近なものにしていきたいと思います。



カーリングジュニア（戦術講習会写真）

▶ Activity Report

スポ少通信 ジュニアリーダースクール



令和7年1月11日～13日、国立岩手山青少年交流の家において、岩手県スポーツ大会兼ジュニアリーダースクールを開催しました。

当事業は、県内のスポーツ少年団員のスポーツ活動を中心とした交流大会であり、活動を通じてス

ポーツ少年団のジュニアリーダーを養成しています。

令和6年度の参加者は、小学5年生が11名、6年生が1名の計12名、全員男子でした。

プログラムは2泊3日で、座学、スポーツ・交流活動を主とし、座学ではスポーツ少年団のことやリーダーに必要な資質などを学びました。スポーツ体験では、屋内でできるスポーツ雪合戦やポッチャなど、普段な

かなかやることのないスポーツにふれてルールを学び作戦を立てたり、活動・生活全般の



中でそれぞれの役割を果たし、充実した交流大会となりました。

人数があまり多くありませんでしたが、参加者同士すぐに仲が良くなり、活動全般を楽しみながらも、時間やルールを守って、大人があまり指示しなくても自分達でしっかり行動していました。大人の方で全部管理するよりも、ある程度子ども達の自律・自発に任せた方が、意識を持ち、しっかりやると感じております。



今回は12名全員がプログラムを最後までやり抜き、ジュニアリーダーに認定されました。

講師の皆様には多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。

参加した子ども達には、ここで経験したことをそれぞれのスポ少活動や日常生活に活かしてくれるよう期待します。

さて、コロナが明けてから、競技大会の方は活況を取り戻しているものの、当事業のような交流大会への参加者がかなり減少しております。

競技大会は、スポーツをしていれば当然目標でありますが、自チーム以外是对戦相手であり、他チームのメンバーと親睦を深める機会は少ないと思います。

交流大会は、対戦相手だったチームの子や、全く関わることがなかった他競技の子など、集まった参加者全員が活動を共にする仲間になり、親睦を深められることが大きな魅力です。

当交流会の参加者は、開会式ではお互い知らない者同士で緊張した面持ちですが、活動を通してだんだん打ち解けていくと、宿泊棟の部屋では修学旅行のような状態になっており、閉会後はやり切ったという満足気な顔で親御さんのもとに帰っていきます。毎年見送りながら、ここで会ったスポ少仲間と有意義な時間を過ごせたことが伝わってきます。

当事業は、子ども達にとってこれまでになかった交流や体験ができる機会となっておりますので、市町村スポーツ少年団ご担当の皆様には、ご理解と参加者の募集にご協力をくださいますようお願い致します。



▶ Activity Report

令和6年度

岩手県生涯スポーツ指導者講習会



令和6年11月19日(火)岩手県民情報交流センター「アイーナ」において、岩手県生涯スポーツ指導者等講習会が開催されました。この講習会は、生涯スポーツに携わる方々を対象に生涯スポーツ関連事業の企画、運営及び指導に必要な知識や技能等を習得するとともに、それぞれのスキルアップや資質向上を図ることを目的としています。さらに、健康・体力づくり事業財団認定の健康運



動士及び健康運動実践指導者の登録更新研修にも認定されています。例年、地域スポーツ推進事業として岩手県の委託を受けて開催して

主催 岩手県・公益財団法人岩手県スポーツ協会
期日 令和6年11月19日(火) 10:00～16:00



おり、今回は県内外から52名が参加しました。

今年度は国立大学法人筑波大学(筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究セン

ター) 体育系准教授の田邊解先生を講師に迎えて、「生涯動ける体づくりのためのヒント」をテーマに体力・運動能力の特徴や加齢に伴う体力低下、健康寿命を延ばすための運動について学びました。講義の中では高齢者の体力低下や女性の特徴からくる体力低下、健康づくりと街づくりを繋げた取り組み等をご紹介いただきました。実習では、どの年代でも取り組めるシンプルな中にもリズム良い運動で、楽しく笑顔で汗をかきながら健康寿命を延ばす運動を提供していただきました。参加者の皆さんからは、今後の実践に活きる有意義な時間であったと好評を得ることができました。



▶ Activity Report

新マーク作成への感謝状贈呈

岩手県スポーツ協会の新マークを作成していただいた多田伊吹氏(東京2025デフリンピックエンブレムをデザイン)が令和7年1月6日、当協会会館へご来館くださいました。

当協会理事長と手話通訳を交えながら談笑し、新マーク作成に至った経緯や現在の活動についてお話しされました。

当協会からは感謝状をお渡しし、感謝の意を表すとともに岩手県スポーツ界の発展を願い共に寄与していくことを誓い合いました。

